生命あふれる豊かな森を次世代へ ——

くまと森と人

2024. 夏
vol.3
Total 116

くまもりの活動を社会にどう届けるか

祝 新潟県阿賀町緊急トラスト

特集 子グマを守ろうと 軽トラに体当たり
根室の母グマ捕獲などありえない

- クマを指定管理鳥獣に指定
- 能登半島地震に於ける再エネ施設の被害状況
（現地調査に参加）

日本にも本当に自然を守ることができる大きな自然保護団体を作ろう！

日本には真に自然や野生動物を守ることができる法律がありません。
法律をつくるためには、たくさんの会員に支援された大きな自然保護団体が必要です。
ぜひ、会員の輪を広げていくことにご協力ください。

入会案内

入会手続き・ご寄付・年会費の納入が、郵便局・銀行に行かなくてもお手軽にできます。

クレジットカードでのご寄付・年会費の納入がウェブサイトからもできます。

■使用可能カード

VISA Card
Master Card

●会費用 QR コード　●寄付用 QR コード

郵便局・銀行口座からの振込み・自動引き落としも、今までどおりご利用いただけます。

■会費・寄付のお振込先

①郵便振替
口座名／熊森基金　００９７０-８-１３７３６０
他金融機関からは　０９９店　当座０１３７３６０

②銀行振込
三井住友銀行　西宮支店　普通８５５８６６３
口座名／一般財団法人　日本熊森協会

個人会員	※ご入会の次年度からは、毎年１月に年会費の納入をお願いいたします。
①正 会 員	年会費６千円以上 10 万円未満（学生半額） 年２回会報　年１回事業報告書　送付 ※ご入会年のみ月割納入が可能 （１千円より月払い可能です）
②応援会員	年会費１千円以上６千円未満 年２回会報　年１回事業報告書　送付
③特別会員	年会費 10 万円以上 特別会員特典あり。 年２回会報　年１回事業報告書　送付 （１万円より月払い可能です）
④家族会員	会員①〜③の同居家族（会費不要）

法人会員 ※詳細は事務局までお問い合わせください。

①企業会員（年会費一口６万円）
②団体会員（年会費一口３万円）

正会員・特別会員は月払いも可能です

【編集後記】

室谷：自然農をされている方の YouTube に出演、鳥獣の問題についてお話させていただきました。人気のチャンネルだったので公開と同時に再生回数がどんどん増えていくのに驚きでした。くまもりチャンネルも充実させねば。

高野：春からクマの話題が目立つ今、心穏やかでいるために出来ることはと思う昨今です。

川崎：かつて人間は、住んでいる地域の中にあるものを循環させながら暮らしてきた。いまは地域にないものをあるところから取ってきて暮らしている。しかしあるところだっていつかなくなる。いやもうすでにそのときかも。

米田：阿賀町のクマ生息地・水源の森トラストの実現は希望の光。再エネ開発に狙い打ちされている他地域でもトラストを広げたいです。未来のこと、命のことを考えた行動、対策がなぜ今日本から忘れられつつあるのでしょうか。

脇井：日本奥山学会の自然観察会の下見で兵庫県のクマ生息地へ。久々のフィールドは、次々に不思議と発見。体感、感動、ショックな景色に学びも。刺激がいっぱい！やっぱり現地で、子どもも大人も見て聞いて！

吉井：様々な情報が日々たくさん入ってきますが、本当に知らなければならないことは多くないような気がします。正しい情報や真実を伝えること、多くの人に広く知ってもらうこと、もっと追及していきたいです。

工藤：阿賀町のトラスト地にドローンを持って撮影をしに行きました。足元が悪く、急傾斜な所もあり、入ることはかないませんでしたが野生動物の聖地は外から見るだけでも美しく、改めて守れたことを嬉しく思いました。

編集長　室谷 悠子（会長）
校正　川崎 浩　（東京都副支部長）
デザイン　高野 哲史（前神奈川県支部長）
本部スタッフ　米田 真理子
脇井 真理子
吉井 陽子
工藤 真那

【表紙写真】
新潟県阿賀町御神楽岳山頂近く
ドローン撮影　工藤真那

実践自然保護団体
一般財団法人 日本熊森協会（にほんくまもりきょうかい）
〒662-0042 兵庫県西宮市分銅町 1-4　電話 0798-22-4190　FAX 0798-22-4196
受付時間 :10 時〜18 時（日・水・祝日は休み）

載禁止

2024.夏
vol.3
Total 116

くまと森と人

CONTENTS

巻頭言	会長 室谷悠子	2
報告	新潟県阿賀町緊急トラスト	4
特集	子グマを守ろうと 軽トラに体当たり 根室の母グマ捕獲などありえない	6
	クマを指定管理鳥獣に指定	9
森林	大型野生動物たちの里地移動　金井塚務	10
全国大会	第 27 回くまもり全国大会開催	13
再エネ問題	能登半島地震に於ける再エネ施設の被害状況現地調査に参加	14
地域だより	新支部長あいさつ ・支部活動	16
顧問連載	くまもり顧問のリレーエッセー　顧問 大前繁雄	19
保護くま	くまと過ごす日々	20
環境教育・お知らせ		22
顧問・企業会員・団体会員		23
入会のご案内・編集後記		24

購入した新潟県阿賀町のトラスト地

巻頭言

熊森の活動を社会にどう届けるか

会長　室谷悠子

止まらない森林破壊とクマ捕殺強化の流れ

いつも応援ありがとうございます。

過去最多９０００頭のクマ捕殺にもかかわらず、昨秋に続き今春もクマの出没が相次ぎ、事故も起こりました。このことからも捕殺で問題が解決できないことは明らかです。しかし、環境省はクマ（四国は除く）を捕殺により生息数を減らす対象である「指定管理鳥獣」にしました。熊森は、野生動物の生息環境を保障し、里には出て来ないように集落の被害防除や環境整備を徹底し、棲み分けを復活させることでしかクマ問題解決の道はないと訴え続けていますが、国の流れは真逆の方向へ進んでいます。

そして、奥山はといえば、まだまだ再エネ乱開発が止まりません。莫大な利益に目がくらんだ国内外の投資家や大企業には、かけがえのない貴重な自然や地域の人々が直面する困難などは無視してよいのでしょう。

本当に大事なことが伝わらない社会

暴走を目の当たりにして、権力やスポンサーに忖度し数字ばかりを追いかける大手メディアが問題の実態を伝えないことが、大きな障害となっていると痛感しています。正しい情報が得られなければ、誰も賢明な判断はできません。

私たちの理念や活動を伝え、想いを同じくする人と繋がっていくための手段や発信方法をもっと工夫しなければと考えています。

共存のための実践活動を応援ください

クマ捕殺強化が進む中で、熊森本部も支部も地域と連携し、捕殺に頼らないクマとの共存をつくりあげるべく奮闘しています。再エネ乱開発についても、地域の方々と力を合わせ、巨大資本にひるまず立ち向かっています。５月８日には、新潟県で再エネ事業者が所有していた自然林約１０００haの購入にも成功しました。

私たちが誰にも遠慮せずに活動ができるのは、自然と生き物を愛する方々の会費とご寄付だけで支えられているからで、このことはずっと私たちの誇りです。

ただ、会費と寄付に頼る財政は不安定でもあり、特に今年は資金をかき集めて新潟の山を買ったこともあり、厳しい状況です。会員のみなさまには、会報と一緒にご寄付のお願いを同封させていただいています。自然や野生動物を守るため、今後も奔走できるように、できる範囲でご協力いただけると嬉しいです。

阿賀町トラスト地付近のクマはぎ
今年に入って皮をはいだもの

無断転載禁止

奥山トラスト

広大な水源の森が売りに出たとの情報！

２０２３年秋、全国再エネ問題連絡会（事務局熊森）で、室谷悠子会長らと共に共同代表を務めておられる仙台の安藤哲夫さんから、新潟の広大な森が売りに出されているという一報が入りました。安藤さんはすぐ現地に行って、情報収集をしてくださいました。

事業者に狙われた土地クマたちのためにも守りたい

売りに出ていた森は阿賀野川の支流常浪川の源流域で、広さは実測で９９６ha！御神楽岳（標高１３８６ｍ）の山頂に近く、全域が自然林で、ブナなどの原生林も含まれます。隣接地は福島県へと続く国有林で、福島県側は林野庁が設定した奥会津森林生態系保護地域となっています。

今回の山は以前集落の共有林で、下の一部は炭焼き用に伐採された歴史もあります。登記簿をみると、再エネ特措法が施行された平成24年に所有者が変わり、再エネ事業者への転売や再エネ事業のための抵当権が付けられたりしていました。現地では、5年ほど前にバイオマス発電の計画もあったそうです。

日本の最奥地まで、再エネ事業者が押さえていることに衝撃を受けました。ここは地域の大切な水源地でもあり、絶対に開発させてはならない場所です。

豊かな森林が残る新潟県でも、近年はクマと人との軋轢が増えてきています。このような奥地は、クマやカモシカ、猛禽類たちの聖域として残してやりたいと強く思いました。

視察直前に別の事業者に転売されていた

さっそく、買取交渉を依頼。広大な森林のため、半年くらいかけて資金を集めたいと申し出ました。11月24日には現地視察も終えました。

しかし、その後、森林の登記簿を改めて取得してビックリ。視察直前の11月21日に、別の再エネ事業者に既に売却されていたのです!!

話がいったん白紙に。このままだと再エネ業者に転々売され最後は外国資本に売られてしまうかもしれません。皆ショックを受けましたが、安藤さんは「何とか買えるように動いてみる」と言ってくださいました。

再度買い取りのチャンス到来！資金をかき集めて、ご寄付も依頼

２０２４年2月、安藤さんより「現在森林を所有している再エネ事業者を探し当てた。買取交渉にあたる」と連絡が入りました。今度こそ取得できるよう、すぐに購入することを決め、資金の準備に入りました。

これまで積み立ててきた資金をかき集めても、まだ、全く足りません。そのため、クマを守るためにできることをしたいとこれまでに申し出てくださっていた方々にご相談すると、1千万円単位の資金を何口かご寄付いただけることになりました。熊森を信頼して多額の資金を託してくださることに熊森本部一同、胸が熱くなりました。

記者会見の様子（於：新潟県庁）

トラスト地に入る山道

祝5月8日無事購入！県庁で記者会見

買取り交渉は難航しましたが、ついに交渉成立。

今年5月8日、契約手続のために、室谷会長は安藤さんと仲介業者の事務所がある福島県郡山市へ向かいました。いったん再エネ業者に売られた山を本当に取り戻せるのか、最後まで不安でしたが、登記手続きも無事終了。約１０００haの大型野生鳥獣たちの生息する山を、再エネ乱開発から守ることができました。

5月23日、室谷会長、取得に至るまで多大なご尽力をいただいた安藤さん、佐藤正陽新潟県支部長が、新潟県庁で記者会見を開きました。新聞社とテレビ局計7社が来て、県内で大きく報道されました。

記者たちからは、トラストの目的や取得した山をどうしていくのかという質問がありました。

山林購入実現にご尽力いただいた全てのみなさまに心から感謝いたします。新潟県支部とともに、開発をせず、未来永劫守っていくことを誓います。

奥山トラスト

国が動かないなら、市民の手で

全国再エネ問題連絡会
共同代表　安藤哲夫

室谷会長の「水源の森を保全し、奥山の動植物を保護するために自然度の高い山林をトラストしている」との話に、以前から共感し、各方面に声をかけていました。新潟の山の情報を得て、さっそく阿賀町を訪れ下見に行き、新潟平野を潤す阿賀野川の源流が湧き出す福島県境の御神楽岳付近の山を見て、「ここを買えばいい！」と思いました。

しかし、いざ売買契約を締結しようとしたタイミングで、直前に再エネ事業者に山林が売却されてしまい、何とか事業者から買い戻そうと何度も上京して交渉を重ねました。

結果、無事熊森協会に所有権を移転することができ心から安心しました。自然破壊を伴う再エネ事業開発に対し、反対の声をあげる地域が増えてきていますが、まだまだ自然破壊は止まりそうにありません。

今回のトラストは、全国各地で反響を呼ぶと思います。今後も熊森のトラストのお手伝いをさせていただきたいと思っています。

原生林を守る意義を伝えたい

新潟県支部長　佐藤正陽

6月4日、トラスト地を訪れました。遠くから見た険しい岩肌の印象とは裏腹に、足を踏み入れると豊かな植生に覆われた森が広がっていました。山は至る所から水が滲み出し、沢を流れる水の量は驚くほど豊かでした。険しい道を登るにつれ、ブナの林が広がり、その美しさに心が奪われました。クマたちがこの森をどのように利用しているのかを想像するだけで、心が踊ります。トラスト地の入口付近まで登ると、その一帯はまさにブナの原生林と呼ぶにふさわしい景色が広がり、何百年も生きてきた巨木や、それらが倒れてできたギャップに新しく生えた若木が共に育っています。

多くの方に原生林を守る意義を伝えながら、この森を生きものたちごと守っていく決意です。

水源の森を乱開発や外資から守ることは国土保全でもあり、本来、国が取り組むべき活動であることに政治家や官僚に気づいてもらいたいです。

【ご寄付のご依頼】

今回のトラストで、これまで積み立てていた基金の大半を使いました。次のトラストやクマ保全活動のために再度積み立てを開始したいと思います。ぜひご協力をお願いいたします。

【ネット】
https://congrant.com/project/kumamori/11947
【銀行振込】
ゆうちょ銀行：振替口座
（口座名）一般財団法人 日本熊森協会
00940-5-272899
他金融機関から：
099 店（当座）0272899

無断転載禁止

クマ保全

子グマを守ろうと軽トラに体当たり

根室の母グマ捕獲などありえない

北海道支部長　鈴木ひかる

日本テレビニュース映像。矢印はクマの進行方向。
「子グマ」「母グマ」「矢印」は熊森が挿入

特集

衝撃的なヒグマTVニュース

4月28日午後1時ごろ、春の山菜であるギョウジャニンニクを採りに行こうと、軽トラックに乗り根室市東梅の林道を走っていた男性たちが、ヒグマと遭遇しました。

ドライブレコーダーが一連の衝撃の映像を捉えていました。

ヒグマを追い払おうとするクラクションの音、ヒグマが軽トラにとびかかる音、運転者の声や叫び、まるで目の前で起きていることのように思えました。

ナレーターが語ります。

――車めがけて一直線に走ってくるクマ。

走行中の軽トラックにクマが襲い掛かりました。

クラクションの音にひるむことなく、ヒグマは運転席めがけて襲いかかります。

――

一体何があったのでしょうか。映像の冒頭に、一瞬、子グマが林道を横切って森の中に入っていく姿が映されています。

子グマに続いて自分も林道を渡ろうとしていた母グマが、この軽トラが止まろうともせず林道を突き進んできたのを見て、子グマを守ろうと軽トラに体当たりを繰り返したもようです。

母グマに罠をかける？！

5月1日、「軽トラックを襲ったクマ、箱罠を設置し捕獲へ」という報道があり、これは熊森が動かねばならないと思いました。　すぐ、根室猟友会や根室市役所に電話をして、「今回の母グマの行動は子を思う母の愛の強さゆえであり、母グマを捕殺するなどおかしい」と訴えました。

猟友会の方も、「親子グマに近づいてはいけないのは常識だ。子グマを見てクラクションを鳴らし、引き返すことなく進んでいけば、母グマを刺激してしまうのは当然だ。運転者の方が悪い。この母グマは問題個体ではない。山の中に罠を設置するなんてありえない」と言ってくださり、ホッとしました。

市の担当者からは、現場周辺には今、たくさんの人がギョウジャニンニクを採りに行っており、野生のクマといつ遭遇してもおかしくない危険な状況であることなど、現地の状況を教えていただきました。

罠設置の件は検討中

罠設置については、マスコミ報道と異なっており、市は捕獲檻を2基用意したが、今のところは現場の山中にかけたりしていない。今後どうするかは、まだ決まっていないということでした。

まだあの山の中に罠は設置されていないんだとわかり、ホッとしたものの、設置しないと決めてくれた訳でもないから、いずれ設置するかもしれないという不安が残りました。

根室行きを決意

根室の母グマの顔が頭から離れなくなった私は、電話だけではなく根室市役所まで行って、直接担当者に会ってお願いしたら効果があるのではと思うようになり、根室行きを決意しました。

我が家から根室は、車で7時間はかかります。車以外の交通手段は使えません。

睡眠不足の私が運転中に寝てしまわないように、愛犬のカムイ君（シーズー犬）を助手席に乗せて、時々語りかけながら行けばいい。

何日の何時なら会っていただけるか担当者に聞こう。日帰りは無理だから宿をとる。仕事を休まねばならないからすぐ調整する。

次々と準備

準備すべきことが次々と頭に思い浮かんできました。支部長の訴えだけでは弱いから、熊森会員2万人の声として室谷会長が書かれた根室市長あての要望書を持参しよう。会長に要望書書の作成をお願いすると、快諾してくださいました。

メディアで報道してもらえたら大きな声になるかもと思い、各新聞社、テレビ局に取材を依頼しました。

市役所の担当者の都合も聞いて、訪問は5月10日金曜日午後4時と決まりました。直前の依頼にもかかわらず、釧路の会員の方が当日電車で市役所まで来てくださることになりました。応援していますという温かい言葉も、網走の会員からいただきました。各地にいる会員のやさしさや、ありがたさが身に沁みました。

子を守ろうと軽トラに体当たりする母グマ

根室市役所訪問

5月10日、愛犬とともに朝7時に家を出て、高速を8時間走り、午後4時、根室市役所に到着。釧路の会員と合流しました。

マスコミの皆さんがすでに到着して待ってくださっており、うれしかったです。

担当課長さんら2名も、こんな遠い所までよく来られましたねと、約90分間も時間を取って私の話を聞いたり、いろいろ教えてくださったりしました。少しずつ根室の様子がわかってきました。

母グマは獲らないと確認

担当者によると、罠で母グマを捕るというのは誤報で、最近、道の駅周辺や市街地近くで何度かクマが目撃されているため、道の駅の横に罠を置いているが、現在、入り口は閉めているということでした。この辺りは元々ヒグマの生息地で、何かを狙ってクマがやって来るのではなく、単なる通り道だということです。

地元ではクマを捕獲してほしいという声は出ておらず、生き物との共存を願う方はけっこう多いとのことでした。市には、今回の母グマや子グマを獲る気がないことが確認できました。

昨年、根室市で有害駆除されたクマは意外なことに1頭のみでした。

ギョウジャニンニクはこの時期のクマの重要な食べ物です。入山制限を掛けるべきではないかというと、今回の事故報道以降、すでに入山者が激減しているということでした。

罠でおびき寄せて獲るのはおかしい

罠の中にはハチミツなどクマの大好物が入れられますから、遠くの無関係なクマまで誘引される恐れがあります。放獣体制のない北海道では、罠に掛ったクマは100％殺処分です。

ヒグマに罠を掛けないよう訴えましたが、根室市は、今後も、引き続き会議で対応を協議するとのことでした。

釧路新聞、毎日新聞、UHBテレビ（北海道文化放送）、読売新聞の記者さんが取材をしてくださいました。感謝です。

夕方、風蓮湖を見渡せるホテルに着き、ホテルオーナーの声も聞いてみました。彼は自然や生き物に深い思いがあり、クマも他の動物も罠で取るべきでない、ヒグマに人の存在を知らせてやれば山でも事故は防げると言われ、風蓮湖を泳いでいるクマを見た時の話をしてくれました。

無断転載禁止

特集

クマ保全

子グマを守ろうと軽トラに体当たり

根室の母グマ捕獲などありえない

ヒグマ用電気柵設置を思いつく

翌朝6時、根室の「道の駅スワン」を訪れてみました。国道沿いにエゾシカよけの金網がびっしりと張られていました。いつも顧問の門崎允昭先生が言われている、クマは電気柵や有刺鉄線で100％防げるという言葉を思い出しました。罠より柵で被害防除してもらえばヒグマを殺さずに済むと思いつきました。

帰宅後、電話で、根室市役所や道路公団などあちこちに、クマよけ柵も道路に設置させてもらえないかと依頼しました。しかし、どこも取り合ってくれませんでした。室谷会長に伝えると、法律的になぜダメなのか国土交通省に問い合わせる文を作成してくださいました。

6月4日、国土交通省北海道開発局釧路開発部から返信メールが届き、今後道路にクマ柵を設置する具体的な話があれば、ご相談の場を設けさせていただくとの前向きの回答でした。

現地訪問が絶対必要

何かあれば、現地に行くこと。行ったからこそ見えてくる実態、わかってくることがあると、今回改めて思いました。

札幌は山の中に作った町なので、周り360度が山でヒグマの生息地です。どこからでもクマがやってくるので防ぐのが大変です。

一方、根室は、海、市街地、山がはっきり分かれており、クマの来る方向は一方向なので、地形的にクマと共存しやすい町だとわかりました。

熊森の活動は、現地に行って、役所や地元の方たちと仲良くなり、誠意100％で接して信頼関係を築き、私達にも協力させてくださいと言って実践自然保護活動を進めていくことだと思っています。

実践活動を行う支部をめざして

まだ日が浅い北海道支部ですが、6月22日、札幌市開催の電気柵張り講習会に、地区長全員で参加しました。「クマったなあ救急隊員実践部隊」として、実践活動が行える支部に成長していきたいと思っています。

講習会後は地区長会を持ち、9月15日午後3時半に道新釧路支社5Fホールで集まりを持つことなどを企画しました。この日は釧路在住のくまもり顧問の安藤誠さん（プロネイチャーガイド・プロカメラマン）に午後6時半から講演もお願いしています。

翌日は、釧路のメガソーラーの惨状を見に行ったり、メガソーラー設置計画に揺れる知床まで足を延ばすツアーを企画しました。

また、10月には稚内での集まりも考えています。みなさんぜひ、友人知人をさそってお集まりください。会員の少ない道東でも会員を増やし、北海道の自然を守ることに少しでも寄与できる支部に成長していけるよう、がんばります。

注：以上の文は、鈴木支部長からの報告をもとに、本部がまとめました。

国の政策

環境省大暴走

残り16頭絶滅寸前の四国ツキノワグマ以外 クマを指定管理鳥獣に指定

山になら何頭いてもいいのです

極限までクマ数低減をめざすつもり？

環境省は令和６年３月２６日、省令改正により、我が国のクマ類（ヒグマ、ツキノワグマ）を、捕殺強化により生息数を低減させる指定管理鳥獣に指定しました。（これまでは、シカ、イノシシを指定）但し、四国のクマだけは対象外。ということは、四国並みに絶滅寸前にまでクマを減らせということなのでしょうか。

今回の改正によって、今までやや保護対象や、保護対象であった西日本、その他の地域のクマまで、一気に管理（＝殺処分）対象となっていくでしょう。そして捕獲圧に弱いクマは絶滅していくという、取り返しのつかない事態になります。今回環境省はその一歩を踏み出したのです。

こんなことになったのは、昨年11月、クマを指定管理鳥獣にしてほしいと環境省に要望した、北海道・東北６県・新潟の知事や、その要望を受けた環境省の官僚や政治家が、生物多様性の重要性や水源の森である奥山生態系に於けるクマをはじめとする野生動物たちの果たしている重要な役割について、全く理解できていないからとしか思えません。

クマ専門家の声も無視

知事たちの要望を受けた環境省は、迅速にクマ指定管理鳥獣化を進めていきました。年末年始に３回開催した検討会では、繁殖力が弱く生息数も桁違いに少ないクマを、シカ・イノシシと同列化したり、保護対象とするまで数を減らしている地域も多くある中、全国一律に指定管理鳥獣に指定することには無理があるというクマ専門家たちの意見が全体を占めました。にもかかわらず、２月８日の第３回検討会終了直後、伊藤信太郎環境大臣は「絶滅の恐れがある四国を除いて、クマを指定管理鳥獣に指定します」と発表。熊森は、唖然としました。

保護団体や国民の声も一切無視

奥山に人知れず生息し人と棲み分けてきたクマが、近年、里に頻繁に出て来て人との軋轢（あつれき）が増しているのは、拡大造林、国土総合開発、地球温暖化、最近では再エネ開発など人間が行った自然破壊により奥山にクマを養うだけの豊かさがなくなってきたからです。中山間地域の過疎化・高齢化が進んで被害防除ができず、野生動物を寄せやすい環境ができてしまっていることも一因です。しかし、環境省は、クマが山から出て来るのは、数の増加や生息域拡大の結果であるとして、全て原因を物言えぬクマに押し付けています。

熊森本部は何度も環境省に行き、奥山からクマ影が消えて里にクマが移動している実態などを伝え、必死で集めた反対署名も提出し、クマ指定管理鳥獣化に反対してきました。オオカミに次いでクマまで失うと、奥山水源の森の生態系が一層崩れ、我が国の豊かな水源が失われ、水不足列島という次世代に取り返しのつかない禍根を残します。

自然生態系は人智を超えた複雑な営みであり、様々な要因によって絶えず変化する野生鳥獣の数を人間がコントロールするなど不可能です。ある程度、数を低減させたとしても、手を緩めるとまた増え始めます。種によっては、絶滅させてしまう恐れもあります。殺処分一辺倒は残酷なだけで問題は解決せず、人心も自然も荒れていきます。

日本は歴史ある国です。ワイルドライフマネジメントなどと西洋の真似などせず、祖先がしていたように捕殺に頼らない棲み分け政策を実施すべきです。そのために必要なのは、国による奥山再生と集落の被害防除対策の支援です。環境省は、一応熊森の話を聞いてはくれましたが、結論ありきの方針は全く変えようとはしませんでした。

環境省が実施した指定管理鳥獣化のパブコメ結果は、
賛成９件、反対440件、その他86件
でした。パブコメ結果も一切考慮されませんでした。

生息数推定の無意味さと今後の対策

クマが各地で目撃されるようになると、一見クマ数が増えたように感じますが、クマの生息数は増減を把握することさえ至難の業です。クマは、木々に覆われた森の中を単独で動き、人間を察知すると気づかれないように逃げます。木々が葉を落とした冬は、穴の中で冬ごもり。実際に何頭生息しているのか数えることが不可能な動物なのです。

そこで、研究者は、捕獲した一部のクマに発信機を付けて放したり、誘引物にやってきたクマの写真を撮ったりして、一部のクマのデータから、複雑な統計学を用いて各都道府県のクマの生息総数を推定しています。統計学の専門家である山上俊彦先生が、全国のクマ生息数推定の計算過程を精査したところ、なぜか過大推定となるような操作が多く見つかったと論文で指摘されています。しかも、このような計算で出た数は、信頼するには幅が大きすぎます。

たとえば、研究者自らが「これ以上はありえない頭数となるように過大推定した」と語っている令和４年末の北海道のヒグマ生息数は、９５％信用区間で、６２６４頭～２１３４７頭であり、最先端の科学技術を使ってもここまでしかわからないのです。熊森は、不確かな推定生息数を元にしたクマの捕殺強化政策に反対です。何頭いても人里に出て来なければいいのです。今後は、捕殺してもクマ問題は解決しないことを、都道府県や市町村に伝え、効果のある被害防除対策と殺さない棲み分け法を広めていきます。

無断転載禁止

なぜ渓畔林は生物多様性に富むのか

陸生生物と水生生物の相互作用＝多様性の維持

陸域生態系から渓流生態系への移行帯（エコトーン）

大型野生動物たちの里地移動

広島フィールドミュージアム代表　金井塚 務

常に揺らぎつつ安定していた自然

私はこれまで、宮島のニホンザル（放飼群）や西中国山地のツキノワグマの暮らしを観察してきたのだが、その主たるテーマの一つが食性に関するものである。彼らは森の中で何をどのように食べているのか、そしてその行動が森林生態系にいかなる影響を与えるのかということを知りたかったからである。そうしてみると森林という一つの生物世界が実に複雑で多様性に富んでいるということが見えてくる。

サルは実りの季節になると、点と点を結ぶように無駄のない動線で移動していく。それぞれのサルの頭には生物暦と地理がしっかりと入っていることを実感する。かれらの採食行動が種子散布を通して環境を変えることになる。

生物の多様性は一見静的に見えるが、生態系内での多様で複雑な関係のなかで繰り広げられる主体と環境との相互作用の結果として、実は常に揺らぎつつ安定しているのである。

重要だった水辺の保全

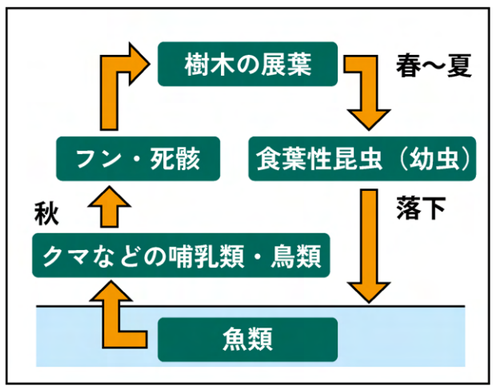
1960年代前半、つまり落葉広葉樹林帯が大規模に伐採されるまでの河川上流部には、イワナやヤマメなどサケ科の渓流魚がかなりの高密度で生息していたことが、当時を知る古老などの話から知れる。渓流魚の産卵期となる10月下旬から11月初旬には、川が魚で盛り上がるほどだったという。植物質の食料と違って、栄養価も消化率も格段に良い渓流魚は越冬を前にしたクマにとって魅力的な食資源となっていたであろうし、この環境があれば森の奥での高密度の生息も可能だったはずである。

イワナ

渓流に生息するサケ科の魚は一年を通して、流入してくる食葉性の昆虫類を主な食糧としていることが知られている。こうした昆虫類は渓流魚に捕食されることで、間接的にクマの食資源となる。魚を食べたクマの排泄物は森林内にもたらされ、昆虫類やバクテリアなどの食物連鎖を経由して植物の成長資源として利用される。ここに陸生生物と水生生物との相互作用として物質循環が認められる。

イワナの胃内容物。ほとんどが陸生の昆虫類。秋田県鳴瀬川にて採取

イタチやタヌキ、カワネズミなどの哺乳類やサギ類、カワガラス、アカショウビン、シギ類、フクロウ類などの多くの鳥類や両生類（サンショウウオ類やカエル類など）、爬虫類（主にヘビ類）などが多様な水生生物（魚類はもちろんヨコエビ類、カワゲラ類、トビケラ類など）を捕食することによって大小様々な循環系が成立しそれらが複雑にからみあって豊かな生物生産を維持している。ゆえに森林生態系にとって水辺の保全は極めて重要な要件となる。そして膨大な森林生産物の一部は土砂などの無機物ともに河川を通じて沿岸部まで運ばれ、干潟を作り、海洋生物群集を支えるものとなった。また、海域での生産物はこれまた様々な生物（回遊型魚類や多くの野鳥類）によって森林の生産資源として回帰するという循環系が成立していた。「いた」と過去形で書いたのには、現在そうした循環系がかなり毀損（きそん）されてしまっているからに他ならない。今日ツキノワグマには魚食できる環境はすでに消滅しており、主に堅果類に頼らざるを得ない状況に陥っているのである。



渓畔林での水域と陸域の物質循環の一例

無断転載禁止

森林

なぜ渓畔林は生物多様性に富むのか

陸生生物と水生生物の相互作用＝多様性の維持

獣害発生をもたらした戦後の奥山破壊

奥山における生物多様性の喪失は戦後に話を限っても凄まじいものがある。大規模なダム、拡大造林、大規模林道、砂防堰堤などにより、多様性に富み生産力を有していた森林生態系は大きなダメージを受けた。

さらに河川改修に伴うコンクリート護岸、河川のコンクリート三面張りによる排水溝化、農地の土地改良事業による水田と河川の分離、融雪剤の多用、車両のタイヤの粉塵（最近その毒性が指摘されている）などの河川生態系へのダメージ、沿岸部では護岸、埋め立て、生活排水や工業廃水の廃棄、農地からの化成肥料の流入、地下水脈の遮断など、水系全体の物質循環を阻害する要因は枚挙にいとまがない。

今日の奥山は野生動物の生息地としてかなり厳しいものとなっている。奥山で野生動物の気配が極端に薄くなってきていることは、森林でのフィールドワークをしていれば誰でも実感することだ。野鳥も昆虫類も他の様々な生きものの姿を消しつつある。こんな中、中山間地域では野生動物による農産物被害が急増し始め、いわゆる「獣害」が発生するようになった。

地球温暖化による森林昆虫相の衰退

奥山生態系の劣化は、温暖化というグローバルな要因によってさらに悪化の一途をたどっている。近年は冬期の気温変動が激しく、冬の中に春や初夏が入り込んでいるような気候が当たり前の状態になっている。

【本部補足】 以下は、昆虫の専門家である主原憲司顧問の研究より。最近は温暖化によって、春先の展葉速度が速過ぎて、卵→幼虫→さなぎ→成虫と変化する完全変態型の昆虫が大打撃を受けている。すなわち、卵から孵った幼虫が若葉を食べようとしても、すでに葉が固くなったりタンニンが多くなったりしていて食することが出来ず餓死。結果、個体群の絶滅すら生じる事態となっているようだ。（カメムシのような、卵→若虫→成虫と変化する不完全変態型の昆虫は、このような影響を受けない）

昆虫相の衰退は、生態系全体の衰退を招きかねない。訪花性昆虫類の減少は、虫媒花の結実に大きく影響し、ひいては果実食の動物の衰退をもたらす。また気温上昇がブナ科の結実に直接的な影響をもたらしている可能性もある。近年のブナの不稔（ふねん）続きもその一つであろう。

里地が大型野生動物たちの新しい生息地に

かつて里地の生産物はほぼ、人間の生活の為に利用されていた。小動物は別として少なくとも大型哺乳類にとっては決して里地は暮らしやすい場所ではなかった。

しかし、今や里地の集落は過疎化し、休耕田、廃田が相次いで、草地や森林へと変貌しつつある。餌資源が貧弱となった奥山より、栽培植物や残飯などの食資源が豊富な里地の方が、野生動物たちに簡単に食料を提供できる。今日の大型野生動物たちの里地移動は必然である。

今後必要な施策

大型野生動物たちをもう一度奥山に返すには、既存のダムの撤去や広葉樹を導入した人工林の複層林化とのセットで砂防堰堤の撤去、最低でもスリット化、自然河川の復元など生物の暮らしに配慮した施策をもって物質循環系を回復する必要がある。

現状は時すでに遅しの感はあるものの、全力を挙げて多様性回復を模索すべき時代に入っているのではないだろうか。私たち人間社会がエネルギー高消費社会から脱却し、循環型社会を取り戻すしかない。

なお紙面の関係で割愛した内容も多いので関心のある方は私のブログである「生きもの千夜一話」https://syara9sai.hatenablog.com/ に是非アクセスしてみてください。

全国大会

クマ保全未曽有の危機、だからこそ集まろう！

第27回くまもり全国大会開催　4月20日（日）兵庫県尼崎市　ホテルヴィスキオ

久しぶりにコロナ制限なしの会場は満席！ 北海道から九州まで180名が参加

オープニングは、コマーシャルソングの女王と呼ばれた熊森会員でもあるミネハハさん「ありがとう地球」を熱唱。

特別報告（ビデオ）
「クマ大量捕殺の嵐に立ち向かう（東北編）」
（動画上映15分）
昨年夏は、北海道や東北地方で史上最高の暑さとなり、山は大凶作。餌を求め山から出て来た前代未聞の大量のクマたちを人間は次々と捕殺。熊森は、小屋に逃げ込んだ親子グマを助けようと駆除の嵐が吹き荒れる秋田へ。この行動が、秋田支部の結成に繋がったことを報告しました。

クマの危機は人間社会の危機

基調報告
会長　室谷悠子
奥山水源の森がいっそう荒廃してきており、昨年は、親子グマなど多くのクマたちが生きるために山から出て来ては、大量に駆除されました。クマの捕殺強化をめざす国のクマ指定管理鳥獣化政策に対して、熊森は必死に反対してきましたが、止められませんでした。一方、再エネによる森林破壊を止める活動は、成果を出しています。仲間を増やし、みんなで協力すれば、豊かな森は残せると信じて今年もがんばります。

顧問挨拶
衆議院議員
和田有一朗顧問

顧問挨拶
参議院議員
嘉田由紀子顧問

支部活動報告
北海道支部
鈴木ひかる支部長

北海道支部
我満嘉明札幌地区長

秋田県支部
井阪智支部長

青森県支部
井垣真由美支部長代理

山口県支部

山口県支部
松田利恵支部長

活動報告
森林保全
坂部幸太

活動報告
環境教育活
工藤真那

会計報告
森菜々事務局長

日本奥山学会
脇井真理子会長

くまもり応援隊
石原じゅん応援隊長

ビデオレター　片山大介顧問（参議）　務台俊介顧問（衆議）　鈴木猛康顧問

終わりの言葉　元衆議院議員　赤松正雄顧問
ウクライナとロシアの戦争が3年目に入り、去年の10月からはイスラエルとパレスチナとの戦闘が続いています。日本では、クマと人が戦争状態のようになっています。生きとし生けるものを大事に思い、自然をしっかり守っていこうという強いみなさんの意志に支えられた熊森は小さいかもしれませんが、日本のいや、世界の自然を守るための、重要な鍵を握っていると思います。

支部長研修会　4月19・20日 新大阪・尼崎
今年の支部長研修会は26名の支部長や支部役員が参加。情報の共有や交流ができました。

次回「第28回くまもり全国大会」は、
2025年4月19日（土）を予定しています。

無断転載禁止

石川県 能登半島

森林を壊してつくった風車は災害に弱く、災害を増やす

5 月 11、12 日　能登半島地震による再エネ施設の被害状況現地調査に参加

地震で半島の全風車が停止

元旦の能登半島地震（M7.6）で外部電源がなくなり、半島にあった 73 基の風車が全て停止。4 ケ月後も 7 基しか動いていません。

全国再エネ問題連絡会では、共同代表鈴木猛康先生を中心に現地調査を実施。熊森より長澤石川県支部長ほか支部員 3 名、小松宮城県支部長、本部より再エネ担当の池田が参加。道路が、処々崩壊、地割れしており、奥能登では倒壊した家屋がそのままの所も見られ、胸が痛みました。

切土盛土が増災をもたらす～太陽光発電～

由比ヶ丘太陽光発電所（穴水町）は、太陽光パネルが地震で地盤ごと崩落し、パネルと土砂が道路を塞ぎました。4 ヶ月が経ち、パネルと土砂は取り除かれていましたが、崩落現場はそのままでした（写真４）。山の斜面を切土・盛土をしたようで、切土部分のさらに山側から崩壊が発生し、近隣の住宅までなぎ倒していました。

珠洲太陽光発電所では、盛土した地盤には多数の亀裂が入り、周囲のフェンスが倒れていました（写真５）。

今回の地震で崩落した太陽光発電所が多数あるそうですが、被害の全容が把握されていません。破損したパネルは、発火の恐れがあり、有害物質が流れ出る危険もあります。山を切り開く風車や太陽光発電の安全性について立ち止まって検証すべきにもかかわらず、能登半島では、新たな風車建設が始まっているとのことです。

（写真４）

石川県支部員の感想

今を生きることで精いっぱいの地元の人たちは、山が傷つけられ、無残な様子を知りません。さらなる風力発電増設で後悔してほしくないです（長澤幸乃支部長）。山を傷めつけ、自然が壊されていく重大さをわからなくなっている社会が大きな問題と感じました（岩上須美江）。自然を破壊してまで建設した再エネは人災として各地で土砂災害をも生んでいるのを目の当たりにしました（善田美香子）。山を削る危険性がよくわかりました。鈴木先生から、災害を小さくする（減災）大切さを学びました（中村恭子）。

（写真５）

（写真１）

地震で風車の羽が破損・落下

珠洲第二風力発電所（珠洲市 20 基）では、風車のブレード（羽）が折れているのを確認。土砂崩れで近寄れませんでした。（写真１）

（写真２）

（写真３）

「鉄筋コンクリート製の基部とカーボンファイバーで補強された木製ブレードの接合部分が折れ曲がったようだ」と鈴木先生。

あいの酒見風力発電所（志賀町　5 基）でも、ブレードが、基部から破断、後方に落下（写真２）。落下したブレード（写真３）は、縦に分断され、グニャッと曲がっていました。

新支部長あいさつ

秋田県

野生動物と共生・棲み分けの森づくりを秋田で

秋田県支部長　井阪 智

秋田県大仙市に住み、今年1月に誕生した秋田県支部の初代支部長に就任しました。

秋田県には4年前に移住し、普段は茅葺き屋根修理の仕事をしたり、地域の里山で環境土木を実践したり、自給用の田畑を営みながら暮らしています。

正直に言えば、支部長という重責を担えるとはとても思えませんでした。しかし、実害のないクマでも、子グマですら見境なく捕らえ、放獣を全くせずに進めた大量捕殺と、それをずるずる容認するような雰囲気に、なんとか待ったをかけたい。そしてできる限りクマを殺さずに農作物被害や人身事故を減らしていく道を探りたいと、決断しました。行政・地域住民の方々がパニックに陥らず現状を冷静に把握してもらうためにも、そもそもなぜクマが山から里に下りてきてしまうのか、本来のクマの生息地である山の環境のことを秋田県民全体で考えていく必要があると強く感じ、3月に大仙市で東北大名誉教授の清和研二さんをお招きし、講演会「人とクマが棲み分けるための森づくり」を開催しました。（右写真）

クマを含めた野生動物と共生し、棲み分けるための森づくりは、豊かで滋養ある水を育み、その水は人の身体を潤し、田畑の営みを根本から支えます。僕自身が、クマ、カモシカ、ウサギ、ヤマドリ、キツネ、リスなどがすぐ身近にいる環境の中で暮らし、そうした山からしぼり出される水を毎日使わせてもらい、しみじみと実感しているところです。

まだこれだけのクマたちがいる秋田県に暮らす人々が、クマたちや森と豊かに深くつながって、清浄な風と水に恵まれ、健やかに喜びに満ち生きている世界を想い描きながら、支部長として熊森の活動を実践してまいります。

愛媛県

海が好きだから、山を守りたい！

愛媛県支部長　渡部 恵

こんにちは。この度、愛媛県支部の支部長になりました、わたなべでございます。

私は、水族館が大好きで、特に魚や海の生態系に強い興味を持っています。海は私たちにとってかけがえのない存在であり、その美しさと神秘に魅了され続けています。同時に、自然全体、動物にも深い関心を寄せており、山や森林の自然環境にも興味がありました。

「水族館が好き、魚みるのの好き」と言っておりましたところ、前支部長からやまのこと勉強してみないかと誘われ、くまもりに入りました。自然豊かと思ってた山は、じつは人工林が多く動物と人間の軋轢が増え、山の奥では、私たちの水源地が開発で脅かされているなど、驚きの連続でした。そんなおりに、前支部長より、自分もバックアップするから支部長になってくれないかといわれ、この状況を何とか変えていきたいと思い、引き受けることにしました。

海と山は密接な関係にあります。山が元気でなければ、海もその健康を保つことができません。山の豊かな森林が雨水を蓄え、その水が川を通じて海に流れ込むことで、海の生態系が支えられています。この循環が崩れれば、海の豊かさも失われてしまいます。ですから、山の環境を守ることは、海の環境を守ることに直結していると思っております。

仕事をしながらですが、支部の皆様の力を借りながら一生懸命頑張って行きたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします！

支部活動

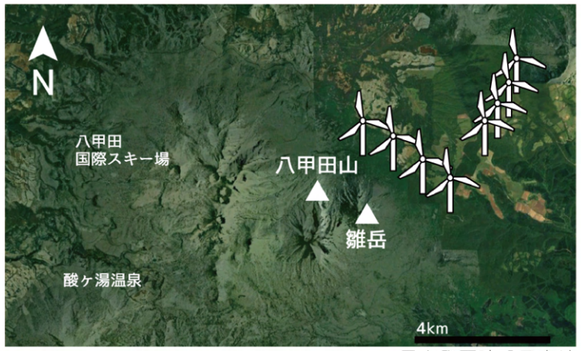
八甲田の次は

奥入瀬渓流を風力発電から守ろう!!

～怒りからではなく、愛から～

青森県

青森県支部長　石戸谷 滋



風力発電建設予定地

他団体と連携し協議会結成

青森では、八甲田山中に計画されていた「みちのく風力発電事業」が23年10月に中止になりました。ところが、一息つく暇もなく、今度は「惣辺奥瀬風力発電事業」が持ち上がりました。有名な奥入瀬渓流から2キロしか離れていない場所に高さ百数十mの風車を33基も建てるという計画で、この6月にも準備書が出される予定になっています。この風車の建設は間違いなく大規模な樹木の伐採を伴い、青森を代表する豊かな自然を破壊します。

これに対し、青森県支部は、他の団体にも呼びかけ、「八甲田・十和田湖・奥入瀬渓流を風力発電から守ろう連絡協議会」を結成して、この地域の自然を守る運動に乗り出しました。

街頭で次々訴え、十和田市長にも要請

会員たちは、4月7日の十和田市での辻立ちを皮切りに、5月末までに十和田市で6回、青森市で17回など、精力的に署名集め・チラシ配りをしています。5月13日にはメンバー4人が小山田十和田市長に面会し、市がこの事業に反対するよう要請しました。

でも、私は、この運動に怒りが入り込まないよう気をつけなくてはならないと思っています。怒りのエネルギーは弱く、人の心を動かす力を持たないからです。自然への愛を拠り所に、笑顔を忘れず、前向きに運動していきたいものです。

東京都

アースデイ東京へ出展

東京都支部長　小迫 優子

4月13日、14日、代々木公園で開催されたアースデイ2024にブース出展しました。2日でのべ、8万8千人が参加する大きなイベントで、19人の会員がスタッフとして、熊森の活動の説明や紙芝居の実演、署名集め、グッズ販売などをしました。ブースを訪れた方は、クマが次々殺される現状に疑問を持っているようで、表に出てくる声は少ないけれども、熊森が提唱する捕獲に頼らない共存に理解を持たれている方々は多いと確信しました。

『理念や活動内容にじっくりと耳をかたむけて質疑応答の末、「こんな活動を探していた」と、その場で会員になっていただけた時は、心が震えるほどの喜びを感じます。熊森の長年にわたる取り組みをしかと受けとめてもらえた瞬間でした』とお手伝いくださった石川レイさん。若い人がたくさん集まるのもアースデイの特徴です。来年は、スタッフが事前に勉強会をして、もっとたくさん入会へつなげようという案も出ています。

無断転載禁止

支部活動

滋賀県

215ha のトラスト地で広葉樹林復元中!!「地域性苗木の植樹」

滋賀県支部長　村上美和子

滋賀県支部では、高島市の琵琶湖源流にある215haのトラスト地をスギ人工林から広葉樹の混じる混交林へと誘導しています。200年後の目標林型はスギと広葉樹の巨木が混じり合う天然林。しかし、今はシカが多すぎて、天然更新は見込めません。

下草や幼木が全く無い地域の山林を何とかしようと地元でタネを拾って育苗する人たちと一緒に活動を始めました。一昨年から地域性苗を柵で囲い植樹しています。森づくりについて本気で語り合う場や都市部から森づくりを支援する団体にも麻生林見学をしていただきました。

高島市森林組合に依頼して作業道開設、搬出間伐、環境林施業（搬出しない間伐）を進めています。森づくりの方向性や林業としての木材生産への理解を共有するため、国の森林技術支援センター研修も一緒に受講しました。意見交換、目あわせの場を大事にしています。

また自伐型林業の岡橋清隆氏に壊れない道づくりを指導していただいています。観察用の小さな道、そして将来抜き伐りをする時期になれば必要になる道です。

麻生林から搬出した材を使用

昨年支部長の職場が新築移転することになり、麻生林の間伐材を購入。事務所＆交流スペースの内装を仕上げました。夢が叶って最高!!

広葉樹林化が進み多面的な環境保全機能（水質の浄化、窒素の巡り、水源涵養、クマの生息域確保）が回復する、それが滋賀県支部の希望です。

大阪府

上向き　前向き　全員集合!!　5月3～5日中之島まつりに出展!

大阪府支部長　今井奈保子

1973年から続く中之島まつりは、大阪市役所のある大阪のど真ん中で開催されます。2年目の参加の今年は、兵庫や滋賀からも応援にかけつけてくださいました。

オーストラリアで環境保護にたずさわっていた人、森山名誉会長の教え子で植樹に行ったことがある人、今年も色々な出会いがありました。昨年末にクマ指定管理鳥獣問題で訪問した柳本顕衆議院議員も来てくださいました。

大阪府支部の強力なメンバーは、「水源の森を守っててね、ほんまにすごい団体なんです。ぜひ会員になって～」と直球勝負。16名の会員さんが増えました！

私たちの使命はとにかく人を集めること。都会の人の目を野生動物や水源の森に向けることです。そのために何ができるか、考え続けています。

顧問連載

猫たちとの関りから考える自然の摂理

顧問　大前繁雄

くまもり顧問のリレーエッセー
くまもりの活動へのご支援やアドバイスをいただいている多彩な顧問の方々に、「私と生きもの」または「私と自然」をテーマに書いていただいています。

子供の頃からの動物好き

私は子どもの頃から動物が好きで、小鳥や金魚、犬など色々飼ったが、高齢になった今は、我が家（およびその近辺）で飼っているのは猫だけである。家の中に1匹、外で2匹、エサをやっているが、以前は家の中で2～3匹、外で5、6匹飼養していた。私の家の前に捨てるとエサをやって育ててくれるという噂が広まって、以前は子猫を捨てに来る人がずいぶんいたので、仕方なしに全部育てていた。

最近減った地域猫

エサを与えるだけでなく、去勢・避妊手術を安くやってくれる「ハッピーライフ」という動物愛護団体を知り、そこにお願いして全ての捨て猫（今は野良猫といわず地域猫と称している）に施術し、クレームの多い地域猫の減少に尽力していた。

そのせいか最近、私の家の近隣には地域猫がほとんどいなくなった気がする。他の地域でも以前ほど猫のクレームが聞かれなくなったので、恐らく私や家内と同じような猫好きがたくさんいて、去勢・避妊手術をして下さっているからではないかと思っている。ただ、地域猫に去勢・避妊手術を施してその数を減らすのが、果たして良いことかどうなのかという思いはいつも脳裏にある。人工的に猫の生殖や妊娠をとめるのは、自然の摂理に反しているのでは、という疑問である。

外来生物の駆除

同じような疑問は外来生物の駆除問題にも見られる。

私と「くまもり」の最初の出会いは約20年前、国会議員に当選した時、外来生物の駆除問題が起こり、当時の森山会長から相談を受けて環境問題の委員会で質問させて頂いたことがきっかけであった。質問・要望内容は定かに覚えていないが、動物、植物を問わず日本に生息する生物は多くが外来種であり、それらを駆除するのは不自然であり、その生態は自然に任せるべきこと。生物を人間が飼養できなくなったからといって自分の勝手で放棄するのは人間の間違いであって生物に罪はない。先ず、輸入を規制し、人間を指導・処罰すべき、といったことを発言したように記憶している。

自然の摂理と人間の努力

それで、先の地域猫の去勢・避妊手術と外来生物の駆除との関係であるが、どちらも人間の努力の問題であり、前者は生物に危害を加えることなく環境の改善を図る良い人間の努力。しかし、後者は責任のない生物に危害を加え、自然の摂理にも反する間違った人間の努力。そのように自分を納得させながら、今日もせっせと家のうち外の猫にエサをやっている。

【プロフィール】
兵庫県川西市生まれ、尼崎市育ち。京都大学法学部卒業後、民間建設会社を経て、兵庫県議会議員、衆議院議員に。防衛大臣政務官を務める。学校法人大前学園を開設し、理事長として高等専修学校甲英学園を運営する。2009年より熊森顧問

無断転載禁止

くまと過ごす日々

母グマを捕殺され、みなしごとなり、現在は、和歌山の生石高原で山田順二さんのもとで飼育されている「太郎」と「くまこ」。大阪でイノシシ用の箱罠に錯誤捕獲され、殺処分寸前のとこ ろを救出され、豊能町の高代寺で保護飼育されている「とよ」。くまもりは、ボランティアのみなさんにご協力いただき、保護飼育のお手伝 いをさせていただいています。
穏やかでとても知的な本 来 のクマの姿や、まだわからないことも多いクマの生態を知ることができて います。彼らは、「 クマは人とすみ分け共存できる」ことを伝えてくれて い ます。みなさんも、ぜひ、会いに 来てやってください！

太郎と花子のファンクラブ基金は太郎とくまこ。
くま保護基金はとよのえさ代やクマ保護活動などに使われます。
ご協力をお願いいたします。

【太郎・くまこ限定】ゆうちょ銀行 振替口座 ００９２０-７-８０４８７
０９９店 口座名「太郎と花子 のファンクラブ」
【とよ＆くま保護基金】ゆうちょ銀行 振替口座 ００９８０-７-２０３２４６
０９９店 口座名「くま保護基金」

くまこ 4才

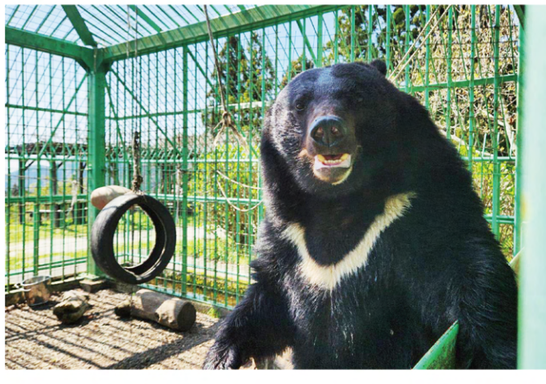
石川県生まれ　メス

雨にも負けず元気なくまこ

まだ目も空いていないネズミの赤ちゃん

今年に入って太郎とくまこの獣舎の倉庫にネズミが住み着いたようで、袋やロープを片付けているとネズミの赤ちゃんがぽろぽろと出てきました。ネズミ対策に掃除をしつつ、赤ちゃんたちにはとなりの空き家に引っ越してもらいました。

みなしごグマの保護飼育 和歌山県有田川町
お世話日は、和歌山県支部（第１・３日曜）、
本部お世話日は（第２・４日曜）

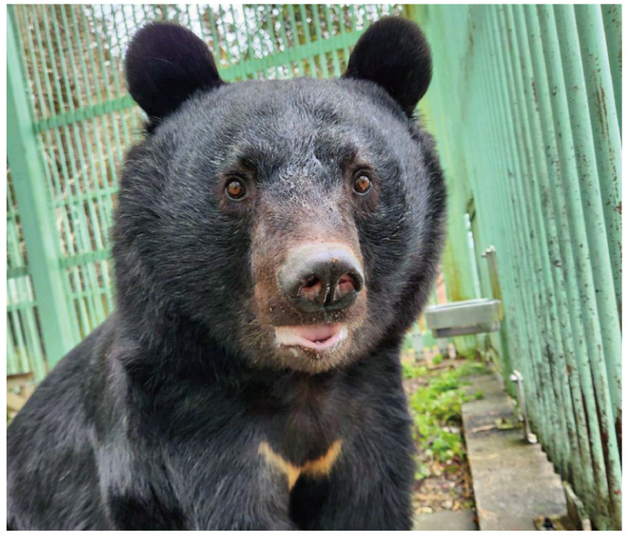


クマはとても耳が良いです。くまこも音に敏感で、車がやって来ると驚いて寝室にかけ込むことが多いのですが、お世話をしてくれる方々の車の音は区別がつくのか「やっと来た！」と言わんばかりに駆け寄ってきます。
和歌山も梅雨に入り雨続きですが、くまこはそれもまた楽しんで毎日遊んでいます。

とよ 14才

大阪府　豊能町高代寺　京都府生まれ　オス

獣舎がキレイに塗りかえられました！



獣舎 before

獣舎 after

錯誤捕獲グマの保護飼育
大阪府豊能町高代寺
本部お世話日は、
毎月第１、２、４ 火曜日と
第３日曜日です。

風雨にさらされサビが目立ってきたとよの獣舎。今回、9 年ぶりに獣舎の塗り替え作業を行いました。クマはペンキの匂いが大好きです。とよも塗り終わった場所に体をこすりつけるようにしていました。色は今までよりもシックな深緑で、回りの木々と調和しています。新しい獣舎にいるとよに、ぜひ会いに来てください。

太郎 34才

和歌山県生まれ　オス

運動場をゆっくりお散歩

春頃、急に足を引きずるようになり寝床から出るのも一苦労だった太郎。最近は足元も随分しっかりしてきて、運動場を散歩するように。今まで使っていた野外用水槽は高さがあり、足の悪い太郎には入りにくくなってしまったので、浅いものにとり変えてやりました。入りやすくなったとたん、太郎は嬉しそうにざぶざぶと水浴びをしていました。

太郎の寝室で生れていた子猫太郎は何もせず見守っていた。

ほっこくまたち

〔駒澤大学高等学校〕

5月15日 東京の高校生に日本の森の危機を伝える

室谷 悠子会長（40 分間）

森なくして人なし

東京都世田谷区にある駒澤大学高等学校では、1年生対象の「親林学校」というカリキュラムがあり、2006年より、長野県信濃町で「絆の森」という森づくりをしています。

くまもりは、2010年から事前学習として、日本の森の現状について講演をさせていただいています。

コロナ禍で中止やオンラインでの講演が続いていましたが、4年ぶりに学校を訪問し、対面での講演が出来ました。520人の高校生のみなさんに、室谷会長が、都市や全産業を支えている奥山水源の森で、森林が荒廃したり、再生可能エネルギー開発によって破壊されたりすることが続いており、クマだけでなく、私たち人間にとっても危機的な状況であることを話しました。

高校生たちはメモを取りながら真剣に聞き入っていました。

感想（一部抜粋）

「クマの居場所をなくしているのは人間だということを知りました。」

「私たちは選択肢を間違えないようにしなければならないと思いました。」

「中学生の室谷さんが知事に自分の意見を伝えに行った話を聞いて、私も行動できる人間になりたいと思った。」

くまもり協会リーフレットをリニューアル！

「日本の奥山の変化」、「クマってどんな生き物？」、「くまもり協会のしていること」、「クマのすむ森に入る時は」など奥山のことやクマなどの情報がぎっしり詰まったリーフレットです。くまもりイベントなどでご利用ください。お問合せはくまもり本部まで。

くまもりコラボＴシャツ、第３弾を販売します！

京都発のチャリティー専門ファッションブランド JAMMIN（ジャミン）さんとくまもりのコラボ T シャツはこれまで２つのデザインが販売されました、今回もチャリティー付きのアイテムとして、2024 年 8 月 5 日（月）から 2024 年 8 月 11 日（日）まで、JAMMIN EC サイト（jammin.co.jp）にて 1 週間限定で販売いたします。

現在、新しいデザインを作成中ですので、どうぞお楽しみに！

第１弾デザイン

第２弾デザイン

■日本熊森協会　法人会員（都道府県別）

2024 年 7 月 1 日現在

企業会員

マルソー（株）	新潟県	（有）コスモス	神奈川県	ムソー（株）	大阪府
（医）小川医院	茨城県	神谷コーポレーション（株）	神奈川県	（株）ホワイトマックス	大阪府
星野管工（株）	群馬県	オーセンテック（株）	神奈川県	（有）アイ・エー・シー	大阪府
（有）長谷川電機商会	埼玉県	上昇運輸（株）	石川県	（弁）東大阪総合法律事務所	大阪府
（株）日本ウォーターテックス	埼玉県	（株）アライアンス	石川県	（株）イワノ	大阪府
（株）セレモ	千葉県	（株）アイシステム	石川県	（株）シーエスハラダ	大阪府
（株）祐真	東京都	飛騨産業（株）	岐阜県	（弁）あすなろ	大阪府
（株）学夢堂	東京都	（株）伴電気商会	岐阜県	合同食品株式会社	大阪府
アカデメイア動物病院	東京都	（株）プレマ	愛知県	（株）尼﨑工作所	兵庫県
（株）Major 7th	東京都	（株）メイコウ	滋賀県	ダイワ運輸（株）	兵庫県
（株）ベアーズ	東京都	（有）ﾌﾞﾙｰﾍﾞﾘｰﾌｨｰﾙｽﾞ紀伊國屋	滋賀県	（株）Lightning&Star	兵庫県
オラガネット（株）	東京都	（株）トータルヘルスデザイン	京都府	（株）ネイチャー生活倶楽部	熊本県
（株）シェア・ジャパン	東京都	朝日商工（株）	大阪府	（医）杏子會	宮崎県
（株）アウレオ	東京都	豫洲短板産業（株）	大阪府	（株）吉玉自動車工場	宮崎県

団体会員

（有）仁井田本家あぐり	福島県	（株）わらべ村	岐阜県	和田山ロータリークラブ	兵庫県
（株）小松設計	千葉県	（有）島田家具工芸	滋賀県	ドッグハウスＫ９	兵庫県
（株）シーエスコーポレーション	東京都	（株）アタシオン	京都府	東城ロータリークラブ	広島県
（株）シェア・ワールド	東京都	木下音楽教室	大阪府	吉舎ロータリークラブ	広島県
（一社）シェア基金	東京都	西宮恵美寿ロータリークラブ	兵庫県	（宗）龍国寺	福岡県
（医）飯沼病院	東京都	（株）ヒューマレッジ	兵庫県	（株）リンク・マーケティング	福岡県
（株）オリエントナノ	神奈川県	第一電子（株）親睦会	兵庫県	公文東与賀教室	佐賀県
ももちゃんの森の探検隊		西宮甲山ライオンズクラブ	兵庫県	（株）宮崎中央新聞社	宮崎県
ぺこちゃんも	神奈川県	ＮＰＯ会計支援センター	兵庫県	（有）角田	鹿児島県
（株）クリーンＫ	岐阜県	（株）ＧＥＯソリューションズ	兵庫県		
（株）杜の研究所	岐阜県	尼崎プロバスクラブ琴寿会	兵庫県		

■日本熊森協会　顧問（就任順）

2024 年 7 月 1 日現在

宮澤正義	生物環境学・野生動物研究家【名誉顧問】（ツキノワグマ研究第一人者）
主原憲司	昆虫研究者（森林生態学研究）
赤木文生	国際ロータリー第 2680 地区パストガバナー 元日本弁護士会 副会長
赤松正雄	元衆議院議員（元厚生労働副大臣）
中野和子	公認会計士 税理士
マルコム・フィッツァール	カピラノ大学名誉教授
門崎允昭	北海道野生動物研究所 所長 農学博士（ヒグマ研究第一人者）
大前繁雄	元衆議院議員（元防衛大臣政務官）
安積遊歩	ピアカウンセラー
安田喜憲	国際日本文化研究センター名誉教授 理学博士 ふじのくに地球環境史ミュージアム館長
西川節行	元広島大学教授 関西経済連合会
橋本淳司	アクアスフィア代表 水ジャーナリスト
船越康弘	民宿「百姓屋敷わら」経営
石　弘之	元東京大学大学院教授 元駐ザンビア特命全権大使
船瀬俊介	消費者運動ジャーナリスト
今本博健	水工技術研究所代表 京都大学名誉教授 工学博士
平野虎丸	森林･林業アドバイザー 一般社団法人エコシステム協会理事
林　将之	樹木図鑑作家
馬渕睦夫	元ウクライナ大使 元防衛大学校教授
藤田　恵	徳島県旧木頭村 元村長
嘉田由紀子	参議院議員 滋賀県選出 前滋賀県知事
安藤　誠	プロネイチャーガイド 野生動物写真家
片山大介	参議院議員 兵庫県選出
池田直樹	弁護士（大阪弁護士会）日本環境法律家連盟理事長
務台俊介	衆議院議員 長野県選出
土屋品子	衆議院議員 埼玉県選出
和田有一朗	衆議院議員 兵庫県選出
飯田哲也	認定 NPO 法人環境エネルギー政策研究所所長
鈴木猛康	防災推進機構理事長　山梨大学名誉教授

JBFS
無断転載禁止